

伝統・絆を鑑みて

浅久保町会会長 伊藤芳夫



私どもの自治会の歴史は古く、昭和二十六年には二百数十軒を越える会員数をもち、面積は現在の駅南口から総合福祉センター西側までの外環脇と笹目通りの間の広域でありましたが、昭和三十八年「東京オリンピック」の際「行政道路(国道254号線バイパス)」が建設され「ホンダ技研・理化学研究所・米軍基地」等によ

り東西に寸断されて「軒新田と分離されました。現在も「中央・丸山台」と三十年以上激しい開発が続けられている広域が対象の地域で、開発により人口の増加が著しく、団塊の世代時期のため児童数が増加したため、機敏な自治会活動が出来るように、上町会・仲町会・浅久保町会と三つに分割し、マンション単体や

隣接の自治会と協力して、浅久保地区連合会を作り十三の団体が共同で行事や市民活動に取り組み、地域住民の絆を深めて来ました。

防災訓練や夏まつり・暮の餅つき大会には、300人以上の子供に大人を合わせ500人以上が参加し盛大に行われ、小学校の行事や「防犯パトロール」「ゴミゼロ(清掃活動)」にも協力し合い、地域のコミュニケーションを図って来ました。

また、子供を対象に「夏休み陶芸教室」「映画鑑賞会」「ボーリング大会」等、季節ごとの自治会独自の行事を行いながら学区を越えて「子供同士のふれ合い」の場を提供しています。

しかし、平成年度からの急激な開発により高層マンションや大規模な住宅地の増設が続く、地区内の世帯数が一期に増え、「今日まで積み上げてきた実績を重んじる既存の住民」と「個々の

考え方を主張する(一部の)「新住民」の比率が逆転し、行事の運営だけで無く、自治会全体の運営にも支障を来しかねない状況の時もあります。

だからと言って、新住民を否定しているわけではありません、自分たちの生活の場を、子どもたちの未来を、真剣に考えている新会員も多くいます。「効率や結果」だけを求めず、「古き良き時代」ではありませんが「心のかよった思いやり」を大切に、「共に助け合いながら暮らして行く」ことが最も良いと考えています。新しく素晴らしいことは数多く有ると思いますが、「先人の知恵(伝統)」を重んじる気持ちが無ければ、一緒に協力し合う心遣いが無ければ良き発展は得られないと思われず。

現在、浅久保町会単体で住民登録されている世帯数は六百を超えています。少子化や新住民の影響もあり、離脱や条件付会員もあり、正規会員は二百軒強です。

平成二三年三月十一日に発生した「大震災」を教訓に、自治会の規模と行動力を着けるため浅久保地区連合会内で「統合」も検討・目視しています。

今後「安心・安全な和光」「地域と人の和」を目指し、「思いやり」のある自治会作りを努力して行きたいと思えます。会員の皆様のご理解・ご協力とご支援をお願い申し上げます。

年頭に当り「浅久保町会」が、投稿させて頂く事に御礼申し上げます。皆様のご多幸を祈念いたします。